

## 【学校の教育目標】

- 1、専門職業人としての倫理観をもち、主体的学習と自己の成長を促すための自発的態度を培う。
- 2、社会の変化に対応できる視野をもち、人々の多様な価値観・ニーズを理解する能力を身につける。
- 3、各分野に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけ、的確な実践力を養う。

## 【各学科の重点目標】

助産学科	<ul style="list-style-type: none"><li>・専門的知識の修得を強化し、的確な助産診断ができるようにする。</li><li>・助産技術の習熟を図り、適切な助産ケアが実践できるようにする。</li><li>・助産チームの一員として役割と責任が果たせるようコミュニケーション技術を高める。</li><li>・教育の質を確保し、学生の教育に対する満足を保証する。</li><li>・国家試験100%合格、学生の定員確保を目指す。</li></ul>
看護学科	<ul style="list-style-type: none"><li>・学生の学ぶ姿勢を大切にし、主体的学習習慣を育てる。</li><li>・看護学生として看護倫理に基づいた行動がとれるよう育成する。</li><li>・第109回看護師国家試験合格を目指す。</li></ul>
救急救命学科	科学的な思考に基づく教育を目指し、高度な医療知識と適切な観察、判断、処置能力を養い、命を繋ぐ使命感と責任ある人材育成を図る。 心構え ①自然な挨拶、礼儀の出来る道德観のある学生 ②清潔な身だしなみの維持 ③コミュニケーション能力の向上 ④規律厳正 ⑤ボランティア精神の向上 ⑥健康管理

<p>歯科衛生士学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい状況に対応していく力を養い、歯科衛生士業務である歯科疾患の予防処置、歯科診療補助及び歯科保健指導の専門性を高める為に、時代に対応した高度な歯科医療に関する知識・技術・態度を修得する。</li> <li>・やさしさ、思いやり、何事にもめげない強い心を持ち、的確かつ総合的に理解する幅広い教養と知識を育成する。</li> </ul>
<p>管理栄養士学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養と人間尊重の心を持って、人々に寄り添い健康と栄養に関する専門性の高い技術で社会に貢献できる管理栄養士を目指す。</li> </ul>
<p>栄養士学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の身体と心を健康にしていく。</li> <li>・実践力のある栄養士を育成する。</li> </ul>
<p>調理師学科・ クランシェフ学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理師としての知識と技術はもちろんのこと、社会人として恥じぬような立ち居振る舞いが出来る学生を育てる。</li> </ul>
<p>製菓製パン衛生師学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンや菓子づくりを通して基本を大事にする精神や思いやりを育み、社会に通じる戦力になる人を育てる。</li> <li>・国家資格取得に向けて受験生として挑み、日々の勉学に励む人を育てる。</li> </ul>

1.教育理念・目的・人材育成像

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	学校の教育目的を基に、各学科(専門分野)の教育目標を定めている。	
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	B	学生には入学オリエンテーション・普段の学校生活や授業時に、保護者には入学オリエンテーション時に説明している。関係業界には実習先を中心に周知している。	特に単位認定の厳しい学生の保護者からのクレームを失くす為、更なる説明の強化を行う。
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を折り込んでいる。学内の各学科と教育連携し、カリキュラムに反映している。	
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A	専門職に対する社会のニーズや要請をしっかり把握し、将来構想を練っている。	
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	A	各学科ごとの教育目標等で方向付けをしている。	

2.学校運営

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	年度初めの辞令式において校長から提示され、それに応じて学科ごとの方針を策定している。	
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	理事会・評議員会等で明確な事業計画が決議され、遂行されている。	
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	A	職務規定、決裁規定により実施、毎年見直しを行っている。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A	決裁規定、マニュアルにより管理をし実施している。適宜見直しを行っている。	
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	B	コンプライアンス対策について、いくつかの項目に対し取り組んでいる。体制の整備については検討中である。	体制の整備について十分検討し進めていく。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	B	ホームページ、パンフレットなどで行っている。今年度新たにホームページのリニューアルを行ったが、出来上がりが遅れ公開時期が適切とは言えなかった。	自己評価、学校関係者評価を含め、今後適切な情報公開に努めていく。
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B	今年度より教務、事務に係るシステムを導入し効率化を目指したが、まだ学内全体に浸透しておらず、全職員が使いこなしていない状況。	使用の充実を図る。

### 3.教育活動

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	学科の特色を生かした教育課程・実施方針を策定している。	
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	学則または学科ごとの細則等により明確にされている。	
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A	学科ごとに体系的に編成している。	
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を折り込んでいる。学内の各学科と教育連携し、カリキュラムに反映している。	
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	B	医療分野（看護、助産など）は業界との連携も強く、カリキュラムの見直しも行っているが、衛生分野（調理・栄養など）は若干連携が弱いのではないかと？	連携を強めていきたい。
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	C	今年度より学校関係者評価委員会を実施予定	年2回の学校関係者評価委員会を設ける予定である。
⑦ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	A	カリキュラムにより位置づけられている。	
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	B	一部の学科では実施していたが、実施していない学科もある。	全学科で実施していく。
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	学則・学科ごとの細則により明確化している。	
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	B	カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるが、組織的な指導体制には若干問題がある	指導体制の見直し、強化を計る。
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B	人材不足の学科がある。	資質のある教員の確保、補充の努力をしている。
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	B	十分とは言えないが、年々人材の確保は出来ている。	資質のある教員の確保、補充の努力をしている。
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	B	看護学科、助産学科では資格取得の為の研修制度があり、救急救命学科は国家試験問題作成協力により質の向上に努めている。調理・製菓は姉妹校での研修、管理栄養・栄養士学科も研修会の参加を行っている。	研修会の数を増やし、参加の機会を増やしていきたい。

### 4.学生指導（私立専門学校等評価研究機構に記載有）

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 基本的な生活習慣の確立のための取組みが行われているか	B	担任制による毎朝の出席確認、遅刻・早退者への指導、学内での挨拶指導、身だしなみのチェック等、医療、衛生分野にふさわしい取り組みを行っている。また家庭との連携にも努めている。	指導不足にならないよう、教員同士の連携も深めていきたい。
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	A	担任が相談に応じ、希望者には面談を行っている。また必要時教務主任、副校長との相談体制も設け	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A	遠方者には女子学生会館の完備、アパート、駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）を行っている。就職については求人票の掲示、面談、関連業界を招いての説明会を行っている。	
④ 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	A	学校保健の加入、アレルギー体質者への給食指導、持病を持つ学生への注視、保護者との密な連絡体制に心がけている	

## 5.学修成果

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 就職率の向上が図られているか	A	学科にもよるが、昨年よりも専門分野への就職率が向上している。公務員関係は狭き門であるが、関連分野の就職は若干向上している。	
② 資格取得率の向上が図られているか	B	一部の学科で合格率が低迷しているが、ほとんどの学科で向上が図られている。	教員の質の向上、国家試験対策教員の配置等の組織の見直しを図る。
③ 退学率の低減が図られているか	B	一部の学科で休学、退学率が高いが、ほとんどの学科で低減が図られている。	教員の質の向上、国家試験対策教員の配置等の組織の見直しを図る。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	広報担当、教員が就職先を訪問し、仕事に対する意識や活動内容を把握している。また、在校生については面接等で把握している。	
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	B	施設訪問で状況を把握し、教育活動に役立てている。	卒業者を招いての講演会企画なども在校生への意欲、刺激には効果的である。

## 6.学生支援

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A	担任制をとり個別面談の実施、求人票の掲示、業界を招いての就職説明会を行っている。また栄養士学科では卒業生の就職試験報告書を自由に閲覧できるようにしている。	
② 学生相談に関する体制は整備されているか	B	担任による個別面談の実施（生活、授業、校外実習など）	休学、退学者への対応の見直しが必要。
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	学生支援機構説明会の実施・相談窓口、都道府県その他奨学金制度の案内掲示、企業との提携による学費借入制度・教育ローンの案内チラシの配布、また個別相談にも応じ学費延納に配慮している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A	女子学生会館（2館）の設置、入学前のアパート、駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）、学校の連携企業へのアルバイトの斡旋等	
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	B	年度当初の健康診断の実施。看護教員常駐の保健室の設置。季節、状況に応じた予防接種の実施。	スクールカウンセラーの配置を検討している。
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	栄養、調理、製菓コンテストへの参加、近辺市町村イベントの参加（衛生分野）、市の依頼による救護活動の協力（医療分野）など積極的に参加している。	
⑦ 卒業生への支援体制は整備されているか	A	再就職の為の情報提供、相談に応じている。看護学科は国家試験再受験者の学内セミナーへの参加、受験当日の引率、指導を行う。	
⑧ 関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか	C	定期的な教員の訪問等により連携は行っているが、再教育プログラムの構築までは至っていない。	必要に応じて検討していく。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	特に出席日数不足、成績不振の学生の保護者に対しては、密に連絡を取り面談等も行い対策を講じている。定期試験の成績報告は郵送により保護者あてに通知している。	
⑩ 社会人入学性のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	A	入学時社会人優待制度（検定料の免除、試験の優待など）を設け志愿しやすい体制をとっている。入学後は教育訓練給付制度の認定を受けた学科の学生に対し、給付金受領の説明、事務手続きを行っている。	
⑪ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	高校からの依頼による講師派遣、インターンシップの受け入れを積極的に行っている。	

## 7.教育環境

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B	やや古い建物（校舎）の空調、机、いす等に不備が生じている。	修繕、補強、補充を行う。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A	学内の実習施設（調理・製菓）は近年耐震性対応による校舎の立替を行った。学外の実習施設（全学科）については、教員による施設訪問、打ち合わせ等を密にとり、施設の確保に努力し規定の時間数の確保を維持している。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	A	校舎については、定期的な点検を行っている。学生に対しては、避難訓練の実施を行い教員の指導、意識付けをしている。	

## 8.学生の受入れ募集

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	B	広報担当者による学校訪問、進路ガイダンス参加での案内、パンフレットの配布、学内オープンキャンパスの実施等情報提供の努力をしている。	定員に達していない学科もあるので、生徒募集への更なる発案、努力が必要。
② 学生募集活動は適正に行われているか	B	広報部の責任者の管理のもと、広報会議での確認、学校訪問記録のチェック等を行っている。	広報担当者の連携を強化し、生徒募集を向上させる
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A	各学科の資格取得合格率、就職先情報パンフレット等で正確に伝えている。	
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	妥当なものとなっている。	

## 9.財務

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	B	新設学科の学生数の不安定さがある。	新設学科の学生募集の強化に努める
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	B	新設学科の人数不足により、収入減が見込まれる。	新設学科の学生募集の強化に努める
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	A	理事会・評議員会において会計監査を適切に行っている。	
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	A	決算書、予算書は事務局に保管、希望により閲覧できる状態となっている。	

## 10.法令等の遵守

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	B	借入金の増加がある。（新設学科の増築等の為）教員不足の学科もあるが、その他については基準を満たしており、定期的な国の監査でも高評価を得ている。	新設学科の生徒増に力をいれ、軌道に乗せる努力をしていく。教員の補充に努める。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A	パソコンの個人情報はセキュリティーのかかったサーバーで保管、管理している。書類は鍵のかかるキャビネットに保管している。	
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	B	今年度より本格的に実施している。問題の改善については、十分とは言えないが教員面談、話し合い、会議等で検討している。	自己評価委員会の充実を計り、問題点の解決に向けての話し合いを強化していく。
④ 自己評価結果を公開しているか	C	公開していない	公開を考えている

## 11.社会貢献・地域貢献

A:適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切 E:該当なし

		現状の認識、および評価	課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	小中学校家庭教育学級からの依頼による料理教室、高校の体験実習、見学会等を積極的に受け入れ行っている。	
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	A	市と連携をし、市行事への参加を積極的に行っている（マラソン大会の看護・救護協力、防災訓練、病院でのメディカルコントロール協議会との演習、市長とのまちづくり懇談会など）	
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	A	小中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室、救急救命学科による救急シュミレーションの実施など積極的に行っている。	

# 学校関係者評価報告書

(令和元年度)

委員会

【実施日】

令和2年3月16日 14:00～16:00

【場所】

晃陽看護栄養専門学校 5号館2階会議室

【出席者】

学校関係者評価委員 ※敬称略

○専門分野における業界関係者

中田 俊之 ・ 清水 雄二 ・ 植木 淳

○地元有識者

黒沢 豊 ・ 清水 俊明

○卒業生

野崎 秀之 ・ 野村 剛秀

学校職員

校長 岡田 文江

事務長 八木下 友恵

医療部事務室長 小林 佐智子

総務部課長 上田 美代子

1,学校関係者評価委員からの意見、質疑・学校の応答

自己評価項目	意見・質疑	学校の応答
1、教育理念・目的・人材育成像	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。	
2、学校運営	(質疑) 情報システムについて、どのようなシステムを導入したのか？	学校が保有する個人情報、基礎情報、学籍番号、履修状況、成績、入試に関する情報などについて、コンピューターシステムでの管理になっている。特定の許された人だけがアクセス出来る。
3、教育活動	(質疑) 国家試験の合格率はどの程度か？	今年度は救急救命学科100%、看護学科は83%。
	(質疑) ⑥職業教育に対する外部関係者からの評価の受入れがCだが、今回の会議のことで良いのか？	今まで学校関係者評価委員会を開催していなかった事を含めCとした。今後毎年開催していく。
4、学生指導	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。	
5、学修成果	(意見) 調理師の社会的地位が低いように思う。飲食業界の会合などでも調理師免許を持っていない人が多い現状。学生の就職意識も低くなるのではないか？国の法律、体制も見直して欲しい。	数年前は有名ホテルなどに就職したいという高い希望を持つ学生も多かったが、最近では正規職員でなくても良いというような雰囲気がある。求人票は多いのに学生の意欲が乏しい。教員の就職指導も工夫が必要である。
6、学生支援	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。	
7、教育環境	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。	
8、学生の受入れ募集	(質疑) 学生募集についてはどのような働きかけをしているのか？	広報部が学校全体の募集活動をしている。高校訪問、高校生対象の進路ガイダンスへの参加、オープンキャンパス等を実施している。募集活動の機会を通して本校の教育の強みをアピールしている。
	(質疑) 入学する学生層を教えてください。	全体で高校新卒者が8割、社会人が2割となっています。
	(質疑・意見) 現在の在籍者数を教えてください。学校の収入源は授業料だと思うので、ぜひ入学者数を増やしてほしい。	衛生分野（栄養、調理、製菓など）は約90名、医療分野（助産、看護、救急、歯科）は約300名。新学科である助産学科は定員にほぼ近く、歯科衛生士学科も伸びてきている。看護学科、救急救命学科は少し減少している。今後は広報部と教職員が一丸となって生徒募集に全力をあげる。
	(意見) 学生数が減少しているのに評価がAになっているのはおかしいのではないか。	評価が募集の方法や取り組みなど主観的評価になっていたことからA判定になっている。今後は評価基準を再構築し、判定の根拠を明らかにしていく。

9、財務	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。	
10、法令等の遵守	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。	
11、社会貢献・地域貢献	<p>(意見) 学生が市の行事「はなももマラソン」「はなももウォーク」などのボランティア活動に協力してくれるのは大変有難く、助かっているので今後も継続して欲しい。</p> <p>(意見) 今後の提案として災害時における災害弱者(妊婦、子連れ、高齢者)を学校で受け入れてもらえないだろうか? 貴校の看護学科、救急救命学科の学生に協力してもらいたい。例えば周産期の災害者者の一時避難所を決めておけば医師の派遣もし易くなる。通院する病院に周知しておけば良いと思う。</p>	理事長、校長へお話をし検討。
	(意見) 避難所の件は、ぜひ検討してほしい。	救急救命学科のシュミレーション実習室の提供を提案は可能。スペース的な面、男女トイレ、洗面所などの設備も十分である。

## 2,学内見学

令和1年度より学科の新設(3学科)があり、新校舎等も含め見学会を行った。